

ミステリ読書案内

2024. 11. 14 発行元

第616号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

太田蘭三「ベスト表」(再掲)

時代小説の書き手から出発してミステリにも範囲を広げた太田蘭三の『ベスト表』を再度取り上げる。図書館では借りる人が多いらしく、今もって開架書棚にある程度の冊数並んでいるのが特徴である。

通俗ミステリの代表作家

日本のミステリの歴史の中で太田蘭三の占める位置はそう大きなものではない。ただ、世の中ではそれなりに人気を得てそれなりに読者を惹きつけた作家だと言えるだろう。まあ、「通俗ミステリ」として成功した部類だと思う。

「山岳ミステリ」の作家と書かれることも多いが、登山そのものよりは溪流釣りだったりの自然相手の舞台設定が多い。やはり初期の作品

の方が力作が多い。ミステリ第一作の『殺意の三面峡谷』はこの『ミステリ読書案内』の別の号で取り上げたので今回は省略。第二作の『脱獄山脈』と第三作の『三人目の容疑者』を紹介することにした。

太田蘭三と言えば『顔のない刑事』シリーズが有名だが、内容的には更に通俗性が強くなり、暴力団・反社会組織の中への潜入捜査が中心になる。気軽に読むのに適しているがミステリ性は薄い。犯罪パイオレンスのジャンルになる。

《太田蘭三作品のベスト表》

1. 脱獄山脈
2. 殺意の三面峡谷
3. 三人目の容疑者
4. 奥多摩殺人渓谷
5. 殺人幻想曲
6. 破牢の人
7. 尾瀬の墓標
8. 赤い雪崩
9. 密殺源流
10. ネズミを狩る刑事
11. 殺人熊
12. 斧折れ
13. 高嶺の花殺人事件
14. 待てば海路の殺しあり
15. 富士山麓悪女の森
16. 恐喝山脈
17. 潜行山脈
18. 箱根路殺し連れ
19. 寝姿山の告発
20. 虫も殺さぬ
21. 夜叉神峠死の起点
22. 鮫と指紋
23. 仮面の殺意
24. 顔のない刑事
25. 歌舞伎町謀殺
26. 失踪渓谷
27. 密葬海流
28. 発射痕
29. 逃げた名画
30. 蛇の指輪
31. 紅い鱗
32. 遭難溪流
33. 魔天崖
34. 殺人雪稜
35. 南アルプス殺人峡谷
36. 首輪
37. 殺人理想郷
38. 被害者の刻印
39. 消えた妖精
40. 謀殺水脈

私が読んでいるのは48冊。ミステリの著作数が63冊くらいだから、まあまあ主な作品は読んだかな、という数字。未読なのは、シリーズ外のもの。現在はブックオフの棚に出ていることはめったになくなったようだ。

「脱獄山脈」

1978年祥伝社ノン・ノベル。ミステリとしては第二作になる。北多摩署のウマさんこと相馬刑事も少しは登場するが、本書の主人公は一刀猛。その意味ではシリーズ外の作品。

一刀猛は元警察官ではあるが、人妻殺しの罪で多摩刑務所に服役中の身。そこへ唯一の肉親である妹の夕子が殺されたという知らせが入る。物語ではその事件に触れる前にプロローグのようにして奥多摩湖に浮かんでいた男性の死体の話が出てくる。一ヶ月前くらいに刺殺されたようで、歯の治療カルテから暴力団・山根組の組員・柴山征次と判明した。次に出てくるのが新潟県の親不知海岸で発見された一刀夕子の死体。紐状のもので絞殺されたようで、目撃情報を辿ってバックを発見し、内容物から東京からやってきた夕子と断定された。彼女は兄の無実を晴らすために動いていたようである。それを聞いた獄中の猛は仲間とともに脱獄を断行し、妹の復讐と自分の無実の証明に過酷な活動を開始する。

「三人目の容疑者」

1979年祥伝社ノン・ノベル。ミステリ第三作。本書は北多摩署が舞台の警察小説の形式になっている。蟹沢警部補、相馬刑事シリーズの第一作と言ってもいい。

著者のことばでも触れられているが、マクベインの『87分署シリーズ』も意識しながら書かれたものようだ。蟹沢石太郎。47歳。ようやく警部補試験を通り、本庁から北多摩署の係長になったばかり。地味な捜査ぶりなのだが、時たま「蟹の横這い」をして本筋からずれた方向に進んだりするのが特徴。本書では錦鯉の盗難から話が始まる。一匹二千万円の錦鯉が盗まれた…。他の事件も重なり忙しい署の動きの中で調べを進めていくことが…。多摩川の土手で炎上した車の中からは若い男の死体が発見され…。蟹沢も男の身元調べに駆り出される。そこへ錦鯉の身代金五百万円とか次なる殺人も加わってきて益々混乱状態に…。